



満席の会場

【会報部】

# 村嶋英治氏講演会 「戦前のタイ国日本人会の 史実に迫る」開催

連載「バンコクの日本人」の筆者、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授・村嶋英治氏の講演会に多くの方が集まりました。

2010年8月号から8年間、96回にわたりクルンテープ誌に連載していただいた「バンコクの日本人」の筆者、村嶋英治氏（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）にお越しいただき、8月31日（金）、日本人会本館にて「戦前のタイ国日本人会の史実に迫る」をテーマに、講演会を開催致しました。

村嶋教授から直接お話を伺うことのできる貴重な機会ということで、定員を大幅に超える68名の方がご参加くださいました。真剣に聴き入る皆さんの様子から、テーマへの関心の高さが伝わってきた講演会でした。



村嶋英治氏



名誉会員レヌカー氏より花束贈呈



村嶋氏を囲んで。日本人会名誉会員と現理事

アグリビリティ-7° 2018年11月23日

## タイ国日本人会報告「戦前の日本人会の歴史を探して」村嶋英治

早稲田大学教授  
murashim@waseda.jp

2018年8月31日(金)10時～

### I、ウェブ情報の増大により容易且つ便利になった資料収集

Google Books,国会図書館サーチ、サイニ(全国大学図書館)、アジア歴史資料センター,朝日・読売新聞検索、WorldCatなど。但し、ウェブ検索の限界もあり。

また、戦前のタイ関係図書は、全国の公共図書館・大学図書館に1冊しか所蔵されていないものや全く所蔵がないものがある、例えば『暹羅王国』(石川安次郎編, 函南商会, 1897年)、『函南策実歴譚』(山崎喜八郎, 1899年)、『暹羅探検実記』(岩本千綱, 1893年)、『白象の国へ』(佐藤正, 1923年)、『南亞旅行記』(溪道元, 1962年)、『徹底推譲の報徳人 江尻りう女史』(愛知県報徳会, 1982年)、The Directory for Bangkok and Siam(Bangkok Times), The Siam Directory (Siam Observer Press)など。雑誌では、『瞎驢眼』(黄檗宗雑誌)、『和融誌』(曹洞宗雑誌)

### II、バンコクにおける日本人団体の歴史

最初の在タイ日本人団体である日暹協会が、石橋禹三郎、山崎喜八郎ら壮士を中心に、1894年8月26日にサーラーデーンの暁鐘庵で結成される。同会は、日本人移民受入も計画。

日本でも1896年の夏に、岩本千綱は日暹協会の組織化試みる、日暹貿易株式会社と対で。1896-7年に、阿川太良、磯長海洲、大山周蔵らの堅実な商人が日本人会(英名 The Japanese Club)を結成。1897年1月10日には大山周蔵宅で日本人会は、川上操六中将一行と宴(明石大将越南日記)

1906年初、稲垣公使帰国時に日本人倶楽部(日本人会とも称す)が成立。稲垣公使、三井物産、川崎造船所の寄付金による。メンバーは相対的に社会的地位の高い日本人。

日本人会(倶楽部)の最初の会長は、三井物産の檀野礼助(1907年7月に日本人会の写真有)日本人倶楽部に対抗して日本人青年会(溪道元ら、1906/07年)が結成され、同会は基地建设のための積立を始める(1906年溪道元のイニシャティブで)

日本人倶楽部の第二代会長、政尾藤吉

日本人倶楽部代表(政尾、磯長、池崎ら)は5世王崩御時に弔問(1910年12月13日)

政尾会長の帰国(1913年8月末日)を契機に日本人倶楽部から日本人会へ改組(1913/14年)日本人会のタイ協会法に基づく内務省登録は、1932年8月

1932年までの歴代会長名は、『暹羅国日本人会会報復活第1号』(1932年6月25日)99頁

603

に明記、それ以後の会長理事長、理事名は日本人会会報の会誌に記載あり。

### Ⅲ、日本人第一回移民の碑（ゲーンコーイ寺）の記載内容の誤謬

日高秋雄氏が面田利平から聞き取って執筆した「邦人草分け時代の短聞」（面田利平、『暹羅国日本人会会報 復活第3号』1933年7月、41-48頁、『クルンテープ』2018年4月号に再録）より、ゲーンコーイで死亡した日本人は、第1次移民中の二人（面田利平の妻、大森五郎右衛門）のみであること明白。（第2次移民の6名の死者はバンコクに戻ってから）。第1次移民中ゲーンコーイで死亡した2名の外に、10数名が碑文にある鍛本（かじもと）作造（正しくは信蔵）も含めブカヌン金鉾山（コーラート県ワンナムキオ郡ターワンサイ村）で死亡。

### 戦前日本人会出版物

- ① 三木栄『盤谷一巡』、1921年8月3日発行、発行所：暹羅国日本人会倶楽部、印刷所：大山商会石版部、バンコク、24頁
- ② 在暹日本人会編（在暹日本人会代表者平佐 幹）『暹羅之事情』、1922年11月13日発行、東亜印刷株式会社出版部、東京、646頁
- ③ 三木栄編『日暹会話便覧』、1938年2月15日暹羅国日本人会発行、バンコク、180頁プラス9頁
- ④ 暹羅国日本人会発行『最新盤谷案内地図』、1939年3月10日発行、印刷所：共同印刷株式会社、東京

（この外、三木栄が中心になって新しい暹羅事情の原稿を集めたが出版費用の工面ができず、三井暹羅室が『暹羅案内』（337頁、1938年11月18日発行）として刊行）

### 暹羅国日本人会会報

1922年頃、会報（月刊、半年刊）を発行するも中断（未発見）

復活第1号（1932年6月25日）

復活第2号（1932年11月25日）

復活第3号（1933年7月31日）

復活第4号（1933年12月31日）

復活第5号（1934年6月）

復活第6号 未発見

復活第7号（1936年7月15日）

（復活1～7号はガリ版刷）

第8号（1937年5月1日）、栄文舎印刷所、神戸

第9号（アンコール特輯号）（1938年3月1日）、栄文舎印刷所、神戸

第10号（1939年9月30日）、金澤英夫出版、神戸

第11号（1941年3月20日）、田中印刷出版株式会社、神戸

（復活第1号～5号は、国立中央図書館台湾分館所蔵）